

Dear Class

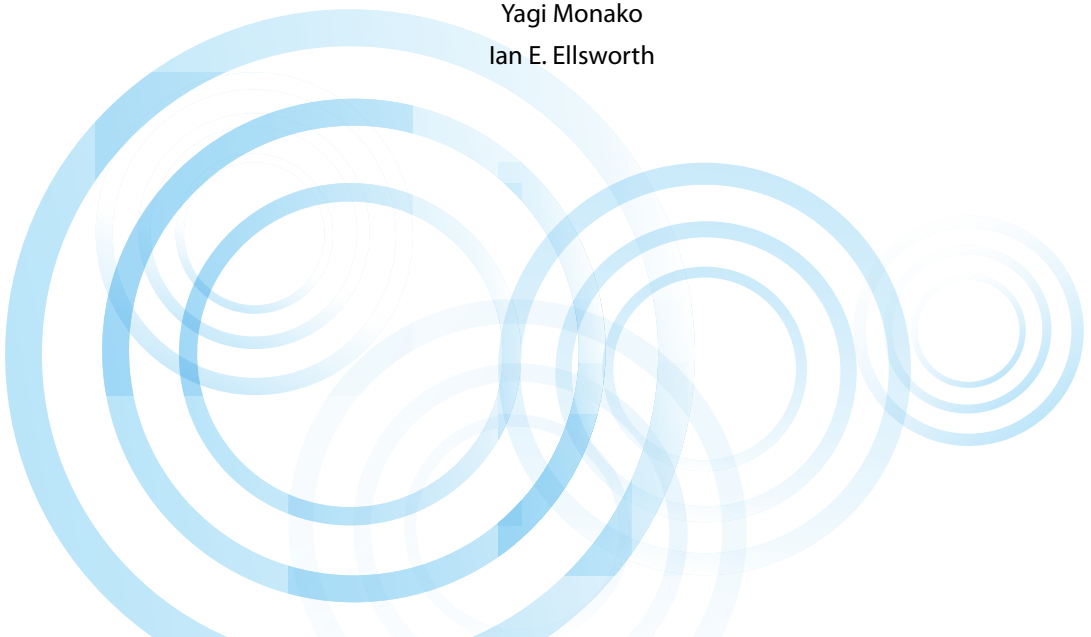
Drop Everything And Read

Nagamoto Yoshihiro

Machida Junko

Yagi Monako

Ian E. Ellsworth



Dear Class

Copyright© 2016

by

Nagamoto Yoshihiro

Machida Junko

Yagi Monako

Ian E. Ellsworth

All Rights Reserved

No part of this book may be reproduced in any form without written permission
from the authors and Nan'un-do Co., Ltd.

はじめに

「どうすれば英語が話せるようになりますか？」とか、「TOEIC で高得点を取るにはどうすればいいですか？」といった質問をよく学生たちから受けます。もちろん、「学問に王道なし」という格言の如く、瞬時にそんな願望を叶えてくれる特効薬など存在しません。絶えることのない努力が求められるのは、英語学習においても同じです。ただ、その際、忘れてはならないことがあります。それは、『基本を決して疎かにしてはいけない』という点です。「日本の英語教育は文法と読解に偏り過ぎて、話すことができない」という指摘をよく耳にします。無論、それは否定し難い事実であり、英語教師として忸怩たる思いがあります。しかし、『会話力』と『語彙・文法・読解力』は反比例するものでしょうか？寧ろ、正比例する場合のほうが一般的です。英語を話せる人は、やはり、語彙力があり、それを操作できる手法、つまり、文法力もあります。そして、英文を読んで理解できる力も備えています。なぜなら、語句の正しい配列方法もわからない人がいくら発音や会話表現を習っても、それをさまざまな場面で活用できるわけがないからです。

本書は、短期間で英会話能力や TOEIC の得点を上げようという目的で書かれたものではありません。「英語の基本的思考や文の仕組みをもう一度学びたい」、そして、「英文を返り読みせず、少しでも速く正確に読めるようになりたい」という人のために、その一助となるべく書かれたものです。確かに、目標言語 (target language) の運用能力向上には、紙と鉛筆に頼った翻訳学習 (translation method) だけでは阻害要因となります。英語を話す前に逐一母国語に置き換えては、話す力だけでなく、その前提となる聞く力も鍛えられないからです。また、心理的にも、些細な間違いをおそれるようになり、英語が口から出てこないという事態も起きるからです。しかし、英語は我々にとって『生活言語』ではありません。特に、母国語習得年齢を過ぎた者が生活言語でないものを理解し、使えるようになるためには、『なぜそうなるのか？』という疑問をまず解きほぐさなければ、前に進めない状況に陥ってしまいます。そうしたことを踏まえた上で、本書は、Grammar Sections の Part 1 と、Listening, Speaking を含む Reading Sections の Part 2 の二部構成になっています。

残念ながら、紙幅の制約があり、1冊のテキストでは、伝えるべき知識の一部しか紹介することができません。只々望むのは、学生諸君が本書での学習を通じて、日本語と思考体系の異なる英語の約束事 (common agreement) に関心を抱き、多読、ライティング、音読、リスニング、シャドウイング等を通じて、英語の理解力・運用能力を高めていってくれることです。

最後になりましたが、Reading Sections の TM に関して置田美咲先生にお力添えを頂きました。また南雲堂編集部の加藤敦氏のご尽力なしには、本書の出版は叶いませんでした。限られた期間の中で、著者たちの我儘な要求を最大限に受け入れてくださいました。更に著者の思い出や心象風景に見事に合致した素敵なイラストを、短期間の内に数多く描いてくださった『ゆかわれい』様を抜きにしても、本書の完成は望めませんでした。この場をお借りして諸氏に心より感謝を申し上げます。

平成 27 年 3 月吉日
著者代表 永本義弘

Grammar Sections

Unit 1	6
名詞の表し方 — 英語では対象をどう捉えるかで、名詞の表現が違う	
Unit 2	10
a(n) と the の基本 — 『どれにも決まらない』 vs 『どれかに決まる』	
Unit 3	14
英文の骨格 (1) — 単語の並べ方	
Unit 4	20
英文の骨格 (2) — 単語の並べ方	
Unit 5	24
『時』を表す仕組み (1) — 過去形を持つ 3 つの距離感	
Unit 6	28
『時』を表す仕組み (2) — 未来を語る表現	
Unit 7	32
『時』を表す仕組み (3) — 『過去』を『今、持っている』(現在完了)	
Unit 8	36
『時』を表す仕組み (4) — 時間差のある出来事が 2 つ (過去完了と未来完了)	
Unit 9	40
尋ねる文 — 『～か?』のない英語は倒置で疑問を伝える	
Unit 10	44
-ing が表すもの — 部分的行為、臨場感、同時性、経験済	
Unit 11	48
受動態 — 作用を「受ける」	
Unit 12	54
仮想の世界を述べる (1) — 仮定法	
Unit 13	58
仮想の世界を述べる (2) — 仮定法	
確認・発展テスト	63

Reading Sections

Unit 1	92
Level 1&2 A Jewel Under the Sea	
Unit 2	96
Level 1&2 Working Robots	
Unit 3	100
Level 1&2 Moomin House Café	
Unit 4	104
Level 1 Idols	
Level 2 The kindness of Strangers	
Unit 5	108
Level 1 Durian Recipe	
Level 2 Poison Gas	
Unit 6	112
Level 1 Yuzuru Biography	
Level 2 From Tragedy to Triumph	
Unit 7	116
Level 1 A Short History of Harvard University	
Level 2 The Power of Ideas	
Unit 8	120
Level 1 Humanity	
Level 2 Humanity	
Unit 9	124
Level 1 Coffee	
Level 2 Caffeine: More than Just an Energy Booster	
Unit 10	128
Level 1 Mike Rowe Biography	
Level 2 Mike Rowe of Dirty Jobs Interview	
Unit 11	132
Level 1 New Measures to Reduce Cell Phone Use	
Level 2 Interviews are Stressful. (A Star is Born)	
Unit 12	136
Level 1 The Great Wall of China	
Level 2 The Unintended Effects of China's One-Child Policy	
Unit 13	140
Level 1 Antarctica	
Level 2 What Lies below the Ice?	

Unit 1

名詞の表し方 — 英語では対象をどう捉えるかで、名詞の表現が違う

日本語では、『車』『友だち』『水』『情報』という名詞を覚えれば、「車が欲しい」「友だちとカラオケに行った」「情報が必要だ」と、そのままの形でどこでも使えます。でも、英語は違います。すべての名詞を『可算名詞』（数えられる名詞）か『不可算名詞』（数えられない名詞）のどちらかに分けて表現しなければならないからです。そして、こうした情報処理は聞き手ではなく、話し手の義務なのです。だから、できる限り正しい英語を使いたいと願っている皆さんは、この名詞表現のルールを学ぶ必要があります。

1. 可算名詞と不可算名詞の分けられ目は具体性

可算名詞と不可算名詞を分けるものは具体性です。例えば、『必要は発明の母である』と言えば、『愛』や『友情』と同じく抽象概念、つまり、不可算名詞ですが (mother of invention)、『これは面白い発明品だ』と言えば、具体性を備えた物品、つまり、可算名詞になります (an interesting invention)。

可算名詞の単数形には a(n) が付き、複数形もあります。また、数詞 (one, two, three...)、few、many などと一緒に使うことができます。

一方、不可算名詞には複数形はなく（『数えられない』ので当然です）、単数形にも a(n) は付きません。また、little や much などと一緒に使うことができます。

尚、the は可算名詞・不可算名詞のどちらにも使うことができます。the は可算・不可算とは無関係です。言い換えれば、the と共に使えない名詞は存在しません。

I saw a dog in front of the house.

(家の前で犬を見かけたよ)

This room smells of dog.

(この部屋は犬の臭いがする)



There are several chickens in the yard.

(庭に鶏が何羽かいるよ)

We're going to have chicken for supper tonight.

(今夜の夕食はチキンよ)



2. すべての名詞は可算・不可算の両方で使える — その捉え方が違うだけ

実は、英語の名詞は最初から『可算』vs『不可算』にきっちり分けられているのではなく、ほぼすべての名詞はどちらでも使えます。もちろん、それぞれの言葉には言語慣習というものがあり、その言葉を使う人たちも、そうした慣習に従ってコミュニケーションをしているので、どちらのほうで多く使われるかという量的な違いはあります。でも、通常は『可算』だが、特別な状況では『不可算』になったり、あるいはその逆になったりと、究極、どちらにもなり得るのです。

① 通常は可算だが、不可算になることもある。



Yoshiki has a fox for a pet.

(剛記はペットにキツネを飼っている)

Yoshiko put on a fur coat of fox.

(佳子はキツネの毛皮のコートを着た)

ペットとして飼っているのは、具体的形状を備えた『生き物としてのキツネ』です（可算名詞）。一方、毛皮に使われているのは、既にキツネとしての形状を失った『解体されたキツネ』です（不可算名詞）。

② 通常は不可算だが、可算になることもある。

I like history.

(私は歴史が好きだ)

Japan has a long history.

(日本は長い歴史を持った国だ)

『歴史』だけでは抽象概念ですが（不可算名詞）、『日本史』になれば、日本国の誕生から平成の現在に至るまでの具体的な時間の長さがあります（可算名詞）。

Exercises

1 次のイラストを参考にして、() 内に入れるべき適切な語句を①～④の中から選べ。

(1) There is () on your left cheek.

ヒント：頬に付いているのは、『すり潰され、既に卵の原形を失った欠片』



- ① an egg ② eggs ③ many eggs ④ egg

(2) You can see a few () of her two () in this ().

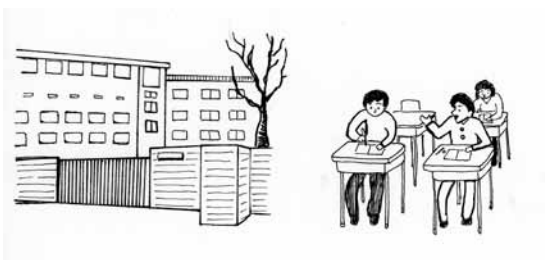
ヒント：ここでの『写真』『女の子』『アルバム』はすべて具体性のある名詞。つまり、可算名詞。後は単数が複数かの問題。



- ① pictures, daughters, album ② picture, daughter, album
③ pictures, daughters, albums ④ picture, daughters, albums

(3) We need to build () in this village. Every child has the right to go to ().

ヒント：具体的な建築物としての『校舎』と、抽象的に捉えた『教育の場』



- ① school, a school ② a school, schools
③ a school, school ④ schools, a school

2 下線部に注意して、それぞれの英文を和訳せよ。

(1) a. It's time to go to bed.

b. I want a new bed in my room.

ヒント：『寝る』という事象と、部屋に置く具体的家具としての『ベッド』

(2) a. She made some room for me in the crowd.

b. We need a larger room.

ヒント：仕切りのない、言い換えれば、具体的形状のない『空間』と、壁によって仕切られた具体的形状を持つ『部屋』

(3) a. The Internet is one of the greatest inventions of the 20th century.

b. Atsushi has a great talent for invention.

ヒント：具体性を備えた『発明品』と、抽象的に捉えた『発明』

(4) a. Sayuri has long and beautiful hair.

b. There were several hairs left on the table.

ヒント：1本1本の髪の毛がその中に溶け込んでしまった全体としての『頭髪』と、テーブルに残された具体的形状を持った『髪の毛』

Unit 2

a(n) と the の基本 — 『どれにも決まらない』 vs 『どれかに決まる』

中学の授業で、「a は『1つ』という意味です」とか、「the は『その』という意味です」と習います。では、“I have a dog.”と“I have one dog.”は同じ意味なののでしょうか？“He likes a dog.”は、「彼は 1匹の犬が好き」という意味なののでしょうか？また、“The earth goes around the sun.”は、「その地球はその太陽の周りを回っている」と言っているのでしょうか？更には、“Give me the money.”と“Give me that money.”に違いはないのでしょうか？実は、「a は1つ」「the はその」では、日本語に存在しない冠詞（a と the）の役割がよくわかりません。

1. a(n) の役割：聞き手に対して、特定させる必要がないとき

- ① その名詞が不特定の可算名詞だと伝えるとき。「1つ」と数を強調しているのではない。

Wakako: Do you have a car?

Hiroko: Yes. I have two.

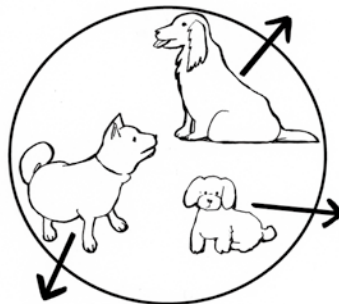
上の文で稚子は、「(世の中に存在する車の内、どれでもいいから) 車を持っているか？」と尋ねているのであって、「1台の車」と数を強調しているではありません。だから、裕子は車を2台所有していても、“No. I have two.”ではなく、“Yes. I have two.”と答えるのが正解です。

- ② 全体に当てはまるとき

A dog is a faithful animal.

(犬は忠実な動物だ)

「a(n) + 単数形」が全体に当てはまることを述べるときに使われるのは、矛盾しているように思われますが、実は、a(n) が持つ「どれにも決まらない」という性質と繋がっています。つまり、上の英文では、「犬という集合から、どの決まらない犬を取り出しても忠実な動物だ」から、「犬というのは忠実な動物だ」という全体の特性を述べる意味に繋がってくるのです。



2. the の役割：聞き手に対して、特定させるとき

① 既に出てきた名詞を指すとき

I saw a cat run over by a car yesterday, but the cat was quite all right.

(昨日猫が車に轢かれたんだけど、大丈夫だったよ)



the cat とは、轢かれた猫だと特定できます。

② 文脈や状況からわかるとき

We took a taxi, but the driver didn't know the route here.

(タクシーに乗ったんだけど、運転手がここまでの道を知らなくてさ)

the driver とは、乗ったタクシーの運転手だと特定できます。

③ 常識から判断できるとき

There is something romantic about the moon.

(月にはどこか幻想的なところがある)

the moon と言えば、「空に浮かぶ月」だと社会常識から特定できます。



④ 話し手と聞き手の間で、既に了解済みのとき

Hey, give me the money.

(おい、例の金よこせ)



the money となっているのは、話している当事者間では、どのお金が特定できるからです。

(注) 学校で the は『その』という意味だと教わりますが、視覚領域内にあるものを指して『その』と言うときは、

Look at that picture on the table. (テーブルの上のその写真を見てごらん)

のように、通例、that を使います。そうした場合にまで the を使ってしまうと、that の出番がなくなってしまうからです。

言い換えれば、the は『何を指しているのかを聞き手に特定させるとき』に使われますが、その場に存在しないものを指すことのほうが圧倒的に多いです。

Exercises

1 次の英文の()内に、a(n)かtheの適切なほうを入れよ。

(1) I'm sorry, but you've got () wrong number.

(番号をお間違えですよ)

ヒント：電話番号には『正しい番号』と『間違った番号』しかなく、『番号違い』と言えば、聞き手にはどちらかが特定できます。

(2) It may be () greatest invention of () 21st century.

(それは21世紀の最大の発明品になるかもしれない)

ヒント：『最大の発明品』と言えば、1つに特定できます。『21世紀』は1つしかなく、特定できます。

(3) *Kokoro* is () work written by Soseki.

(『こころ』は漱石の作品です)

ヒント：『こころ』とは、数ある漱石の一作品です。

(4) I see Kaoru twice () week.

(かおるとは週に2回会っている)

ヒント：特定されないどの週を取り出しても2回会っているから、『週に2回』となります。

(5) There was not () star in the night sky.

(夜空には星がまったくなかった)

ヒント：特定されないどんな星を取り出してもなかったのだから、『星がまったくなかった』となります。

(6) It was, in () sense, () beginning of the incident.

(それはある意味では、事件の始まりだった)

ヒント：特定できない意味なので、『ある意味では』となります。物事の始まりや終わりは1つしかなく、特定できます。

(7) () Sakakibara came to see you a few minutes ago.

(少し前に、榊原という人が会いに来たよ)

ヒント：どの榊原か特定できないので、『榊原という人』となります。

(8) Turn off () light when you leave () room.

(部屋を出るときには、電気を消してください)

ヒント：『聞き手が今いる部屋の電気』だと特定できます。『聞き手が今いる部屋』だと特定できます。

(9) I want to have () third child.

(3人目の子どもが欲しいわ)

ヒント：単に『3人目の子ども』、つまり、『子どもをもう一人』と言っているだけで、1番目、2番目、3番目と順序を特定しているではありません。



(10) Why don't we go and watch () game between () Tigers and () Giants tonight?

(今夜阪神巨人戦を観に行こうよ)

ヒント：『今夜の試合』だと特定できます。阪神と巨人に所属する『特定の選手の集団』です。

2 次の英文では、それぞれ a(n) および the が使われているが、その違いを説明せよ。

- (1) a. "Can you play the piano?" "Yes, I can."
 b. My sister bought a new piano yesterday. She is now playing the piano.

ヒント：a. the piano → 『特定のピアノ』か？

b. a new piano → 楽器だからという理由で、the が付くとは限らない。

the piano → a new piano との関係は？

- (2) a. I like the current principal of this school.
 b. Mr. Okabe is a former principal of this school.

ヒント：a. the current principal → 現校長

b. a former principal → 元校長

- (3) a. Chiharu is the only child in the family.
 b. Chiharu is an only child, so she is more or less egocentric.

ヒント：a. the only child → 家族の中の子どもの人数は？

b. an only child → 世の中に存在する『一人っ子』の数は？